

# ★えんがる 議会だより



平成30年第4回町議会（定例会）	2
平成30年第3回町議会（臨時会）	5
一般質問	6
委員会レポート / 行政視察調査報告	12
報告（第三セクター）	17
えんがる話・編集後記	18



# 子どもたちが通いやすい環境へ 関係予算を補正

## 平成30年 第4回定例会

平成30年第4回遠軽町議会（定例会）は、6月19日に招集され、6月21日までの3日間の会期で開かれました。冒頭、佐々木町長から行政報告として、JR北海道の問題について、3月に北海道が「北海道交通政策総合指針」を策定し、幹線交通ネットワークとして維持に向け、検討すべき路線として位置づけられ、オホーツク圏活性化期成会としては、今年度の利用促進策について検討を深めていくことの報告がありました。

また、東京オリンピック遠軽町展示林について、小学生や関係者の参加のもと、展示林から採取した種子の播種体験を開催した旨の報告があったほか、提出案件の要旨説明が行われました。

報告は、第三セクターの経営状況について2件、平成29年度一般会計及び下水道事業会計の繰越等について報告しました。

審議は、平成30年度一般会計・特別会計補正予算の11件及び各条例の一部改正4件、表彰1件、過疎地域自立促進市町村計画の変更1件、工事請負契約の締結7件、財産の取得1件、追加議案として工事請負契約の締結1件、意見書1件が提案され審議の結果、すべてを原案のとおり可決しました。

### 主な内容

#### 補正予算

◆平成30年度遠軽町一般会計補正予算（第2号）  
歳入歳出予算の総額に4億199万円を追加し、総額を153億2953万円としました。  
（主な歳出内訳）  
○地域拠点施設整備事業 4000万円  
※（仮称）えんがる町民センター整備関連  
・遠軽町温暖化対策実行計画策定業務委託料  
・計画策定業務委託料  
・経費節減や、CO2の排出抑制に取り組むため、地中熱による設備導入に係る「地方公共団体実行計画（事務事業編）」を策定するための経費です。  
・岩見通南1丁目排水管撤去等工事  
施設周辺の外構・道路工事を円滑に進めるための工事経費です。

○基金運営事業 449万円  
・まちづくり振興基金積立金  
指定寄付金9件ふるさと納税寄附金305件です。  
○高齢者共同生活支援施設管理事業 143万円  
・高齢者共同生活支援施設電気温水器更新工事  
みのり荘（1条通北1丁目）の電気温水器の更新に係る経費です。  
○子ども子育て支援事業 3億2752万円  
・認定こども園等施設整備事業補助金  
認定こども園こころの改築に係る経費に対する補助金です。  
○上武利地区給水事業 730万円  
・上武利地区給水施設配水池増設工事等実施設計業務委託料  
上武利地区給水施設の整備に係る経費です。  
○歯科診療所運営事業 1億4830万円  
・白滝歯科診療所衛生器具設置工事

### 表彰

・備品購入費  
・歯科診療所資金貸付金  
丸瀬布歯科診療所及び白滝歯科診療所の施設整備等に係る経費です。  
（全会一致可決）

遠軽町表彰条例により、次の方を表彰することに決しました、原案のとおり可決しました。  
◎社会功労（公共のため30万円以上の金品を寄附した個人）  
・小柴 くるみ 様  
（教育振興資金）

### 主な条例の改正

◆遠軽町水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例の一部改正  
遠軽町水道事業の給水区域の拡大並びに給水人口及び1日最大給水量を改正するため町条例を改正



放課後児童育成の充実のために



【認定こども園こころ】

子どもたちが遊び・学ぶ環境の充実が図られます

### 財産取得

◆遠軽町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正  
放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴う町条例の改正

◆遠軽町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴う町条例の改正  
家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正に伴う町条例の改正

### 計画の変更

◆過疎地域自立促進市町村計画の変更  
新規事業の追加に伴う計画の変更



### 工事請負契約

①契約事業者、②契約額  
 ③予定工期  
 ◎平成30・31年度遠軽道の駅建設工事（建築主体）①菅野・山口JV、②5億8752万円、③10月31日  
 ◎平成30・31年度遠軽道の駅建設工事（給排水衛生設備）①栄管・ウエノJV、②6156万円、③10月31日  
 ◎平成30・31年度遠軽道の駅建設工事（空調設備）①三宮・西岡JV、②5038万円、③10月31日  
 ◎平成30・31年度遠軽道の駅建設工事（電気設備）①遠軽・北海・工藤JV、②1億962万円、③10月31日  
 ◎平成30年度ふくろ団地公営住宅建設工事（G棟）（建築主体）①株三共後藤建設、②6437万円、③11月20日  
 ◎平成30年度ふくろ団地公営住宅建設工事（H棟）

（建築主体）①株三共後藤建設、②6696万円、③11月20日  
 ◎平成30年度丸瀬布小学校耐震改修工事（建築主体）①株菅野組、②1億1750万円、③1月31日  
 追加議案分  
 ◎平成30年度山の手団地公営住宅長寿命化改修工事（60-1A-1棟）（建築主体）①丸尾・日新JV、②1億7625万円、③2月28日



### 意見書

—国への意見書1件を可決—

議員提案により意見書案が提出され、1件を可決し関係省庁等に送付しました。

日本年金機構の情報セキュリティ対策の見直しを求める意見書  
 （提出者等 阿部議員ほか5人）

莫大な個人情報情報を管理し、複雑化した年金制度を正確かつ公正に運営し

なければならぬ日本年金機構は、情報問題を引き起こした信頼回復のために、情報セキュリティ対策を抜本的に見直すこと。

1 外部有識者の調査組織により、本事業の業務プロセスを徹底的に検証すること。  
 2 委託業者の作業進捗管理手法や納品物の検証・監査体制を確立すること。

3 日本年金機構が保有する氏名、生年月日、住所、電話番号等の個人情報保護の在り方を再検討すること。  
 （提出先）内閣総理大臣、内閣官房長官

### 自治功労者表彰

山谷敬二議員に北海道町村議会議長会会長から自治功労者表彰の伝達が行われました。

このたびの表彰は、北海道町村議会議長会表彰規定に基づき、山谷議員が15年以上にわたり遠軽町議会議員として、地方



永年の功績が認められ

自治の振興発展に貢献した功績が認められたもの表彰の伝達を受けました。

### 平成30年第3回臨時会 丸瀬布小学校耐震改修工事 補正予算可決！

平成30年第3回遠軽町議会（臨時会）は5月31日に開かれました。

冒頭、佐々木町長から「FISファイリストカップ2018」が開催され、開催に御尽力いただいた関係者、協力者及び協賛者の皆様に対するお礼と、今年度の開催についての御支援と御協力のお願いがあり、また丸瀬布森林公園いこいの森について、一昨年の大雨により甚大な被害を受けた復旧の一連の工事が、おおむね終了する7月の夏休み前には、「いこいの森災害復興記念セレモニー」を計画している報告があったほか、提出案件の要旨説明が行われました。

審議案件は、平成29年度一般会計・特別会計補正予算の専決処分4件、各条例の一部改正4件、

表彰2件、工事請負契約の締結2件、財産の取得1件、平成30年度一般会計補正予算4件が提案され審議の結果、すべてを原案のとおり可決しました。

### 主な内容

#### 補正予算

◆平成30年度遠軽町一般会計補正予算（第1号）

歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ1954万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ149億2754万円としました。

（主な歳出内訳）

○企画一般経費

240万円

・姉妹都市交流事業報償費

費

### 耐震化で子どもたちの命を守る



【丸瀬布小学校】

姉妹都市バストス市入植90周年記念式典等表敬訪問に係る経費です。

決しました。

◎社会功労（公共のため30万円以上の金品を寄附した個人）

・奥原吉貞様（まちづくり振興資金）  
 ◎社会功労（公共のため100万円以上の金品を寄附した法人又は団体）

・株渡辺組様（奨学資金貸付資金）  
 ・（バストス市訪問資金）

### 条例改正

◆遠軽町税条例

◆遠軽町都市計画税条例

◆遠軽町国民健康保険条例

いずれも、地方税法等の一部を改正する法律に伴い必要な条例改正を専決処分するものです。

◆遠軽町都市公園条例の一部改正

都市公園法施行令の一部改正に伴う町条例の改正

### 財産取得

◎小型除雪車1台  
 ・取得事業者 北海道川崎建機株式会社  
 ・契約額 3013万円

### 工事請負契約

①契約事業者②契約額  
 ③予定工期  
 ◎平成30年度瀬戸瀬パークゴルフ場拡張工事  
 ①丹野工業株式会社  
 ②5324万円  
 ③11月30日  
 ◎平成30年度遠軽道の駅外構整備工事  
 ①茶木・日新JV  
 ②1億778万円  
 ③12月20日

### 表彰

遠軽町表彰条例により、次の方を表彰することに決しました。原案のとおり可決しました。





一般質問

竹中 裕志 議員



問

『安心安全を守る防犯対策』について

答

関係団体と連携を図りながら子どもたちや地域住民の安心と安全を確保していく

ただ  
町政を質す!!

平成 30 年第 4 回町議会（定例会） 一般質問

6 人の議員が登壇し、多岐に渡り議論が展開されました。

一般質問

佐藤 登 議員



問

人口減少対策にむけて、インパクトのある出産祝金を支給すべきでは

答

金品の支給によって出生数の増加は期待できるものではないと考える

問 本町において、いまだに不審者による声掛けなどの危険な事案が学校やその近隣などでたびたび発生し問題となっており、このような「危険な事故を未然に防ぐ」ためには、自治体が主体となり速やかに積極的な防犯対策をすべきと考えますが、次の3点について質問します。

1 現在の教育施設における防犯に関する備えはどの程度整備された状況なのか、さらに安全安心を守るための新たな対策などは検討されているのか。また防犯設備が未整備の公共施設についても

早急に対策を検討すべきと考えるが、整備計画の予定はあるのか。  
2 保育所や児童館の防犯対策は、十分に対応しているのか。  
3 少子高齢化の進むなか、地域住民の安心・安全を確保するためには公共施設に限らず通学路や人通りの少ない危険な道路などにも、防犯灯に加えて、防犯カメラなどの設置が必要と考えるが、検討する考えはあるのか。

町長 町内小・中学校においては危機管理マニュアルを作成し、不測の事態

に備えています。具体的な備えとしてはサスマタを配備したほか、登校後の生徒用玄関の施錠、さらには、学校によっては防犯カメラや人感センサーの設置などで対応しています。

防犯設備が未整備の公共施設についての整備計画は、今後予定されている道の駅や町民センターについては、設置することについては、現在の施設についての整備計画はありません。

2 保育所については、全所で保育時間の一定時間内は玄関の施錠し、来客対応のためカメラ付き

インターホンを設置しており、年2回は警察の協力の下、不審者対策として、サスマタを活用した訓練を実施しています。児童館についても、昨年度から警察の指導の下、利用児童も参加して防犯訓練を実施するなど、安全対策及び緊急対応の充実を図っています。

3 防犯灯や防犯カメラの設置等については、現在、防犯灯は、町管理の生活安全灯、及び各自治会所有の防犯灯を合わせて、約300基が設置されています。また小中学校のPTAを中心として「子ども110番の家」

※サスマタ（刺股）  
2 m余の棒の先に、二又に分かれた鉄製の頭部をつけた防犯用具

ただ  
町政を質す!!

問 平成30年5月末の遠軽町の人口は、20085人となり、今年度中に20000人を割り込むことが容易に推測される状況です。  
本町の子ども・子育て支援事業計画は、子どもが生まれてからの支援事業に対しては、細部に渡り計画がなされていますが、結婚と出産に関する支援事業が手薄であると感じられます。  
創生総合戦略で平成31年度の合計特殊出生率を1・70、年間出生数を160人と目標設定されていますが、平成29年度の出生率は1・49、出

生数は122人と過去最低となり目標を実現させることは、極めて困難です。  
出生・子育て環境充実のために、10年、15年後の遠軽町の将来に禍根を残さない思い切った先行投資、そしてインパクトのある施策・事業を今展開すべきと思います。  
次の4点について考え方を伺います。  
1 過般の議会において出産祝金の支給をすべきとの質問に対し、現段階では考えていない、新たな次年度に向けて検討を進めるとの回答だったがその後の検討結果につい

て。  
2 子育て世代の負担を軽減する施策として、生まれてくる全ての子どもたちに、インパクトのある出産祝金を支給して出生率・出生数を高めるべきと思うかがか。  
3 2030年の遠軽町の人口推定は、16385人と発表されたが、出生数を前年比15%増加に設定し、2030年以降の総人口を17000人に想定して、施策・事業計画の算定基礎とすべきと思うかがか。  
4 若い世代が子供を持ち、育てる気持ちが高めるためには、出産から高

校までの医療費・養育費・教育費を国と道からの支援のほかに、所得に応じた遠軽町独自の助成を行って若い世代への支援を促進すべきと思うかがか。  
町長 平成26年6月定例会での回答については、子ども2人の家庭が、支援によって3人目を産もうと思うのかという点も含めて検討を重ね、「子どもノート」の配布、電子母子手帳の導入、養育支援訪問事業の実施等、子育て世代をサポートするサービスの拡充を図りま



した。  
2 金品の支給によって出生数等の増加は期待できるものではないと考えており、産婦人科医師の確保をはじめ、安心して出産し育てることができ環境整備が重要な施策と考えています。  
3 将来の社会情勢の見通しや国政調査・関係機関などの様々なデータをいながら、本町の将来の人口を適正に推計し、算定基礎としていきます。  
4 町としては、妊産婦交通費、幼稚園就園補助金、スキー授業のリフト代、スポーツ少年団や学校の部活動への助成等独自の支援をすでに行っています。



# 一般質問

佐藤 昇 議員



## 問

「子育て世代包括支援センター」設置の具体化は?

## 答

第2期子ども・子育て支援事業計画の中で検討したい

きた経緯もありますが、「子どもたちの健全育成」「高齢者の健康増進」という観点から早期に作成すべきと考えます。

**問** 子育て支援の充実について

1 子育て支援を系統的に行っていくための「子育て世代包括支援センター」が母子保健法改正により市区町村に設置することが努力義務とされ、平成32年度末までに同センターの全国展開を目指すこととなっています。

遠軽町においてはいつの時点で具体化しようとしているのでしょうか。

2 町内の保育所、児童館、母子通園センターなどは建設から相当年数が経過しており、施設の今後の耐用年数などを考え、建て替えも検討しな

ければならない時期にきていると思います。

その際に、子育て支援の拠点施設として「子育て支援センター」と併設して整備する考えはありませんか。

3 「都市再生整備計画」の中で、旧ふあ〜らいとを親子の遊び場という計画が示されていますが、単に遊び場、親子の交流の場にとどまらず、子育てに活用という視点で「子育て相談コーナー」を設けたり、高齢者など過去の遊びを通じて多世代交流ができるような工夫を凝らしたりなど、街中賑わい拠点として整備する

考えはありませんか。

## 町長

1 「子育て世代包括支援センター」は妊娠前から子育てまで切れ目なく支援する仕組みを作るものであり、現行の体制でも十分と考えますが、遠軽町子ども・子育て支援事業計画が平成31年度に第2期の策定を行うことからその中で検討したいと考えています。

2 現在町内では大規模事業が進行しており、また、保育所等を併設する際には、施設の再編も検討しなければならぬので、今後の研究課題と考

えます。

3 旧ふあ〜らいとを親子の遊び場に決定しているわけではありませんがソフト面での工夫を凝らすことにより、施設機能の充実を図ることは大変重要と考えています。

## 再問

食育推進計画の策定について  
食育の推進に向けては、食育基本法第18条第1項により「計画の作成に努める」とされており、また、北海道の市町村における作成割合は54.7%となっています。  
推進計画の作成に向けては以前から検討されて

きた経緯もあり、関係部署での意見交換を行うなど計画策定に向けた検討を進めてきたところです。

保健福祉にかかる「健康増進計画」、子育てにかかる「食育指導計画」などがあり、また、農業分野での「安心・安全な農畜産物の推進」「地産地消」などそれぞれの分野で計画に即した形で多岐にわたって推進しています。

今後も関係部署の情報共有・連携を図りつつ継続して検討します。

# 一般質問

渡部 正騎 議員



## 問

高年齢者に多様な働く場の確保を

## 答

既存の委託事業を継続しながら若年層と高年齢者の雇用バランスを考えたい

**問** 平成37年における本町の高齢化率は38.7%と予測され、さらに超高齢社会に拍車がかかる見込みです。

高齢化が進むと同時に、現在本町では人手不足が様々な業種で顕在化し、この人手不足を解消するため、高齢者の再雇用や継続雇用を利用して、今までも同様の仕事を行うことが難しい現状もあると伺っています。

ただ、高齢者の方には仕事を生きがいにしている方、経済的理由により働かざるを得ない方と様々な要因はあり、働き

たいという方に対して多様な就業機会を確保することが必要と考え、今後その需要は、高齢化が進むにつれ増大していくと思われま。

以下の2点について考えを伺います。

1 厚生労働省が、現在「生涯現役促進地域連携事業」の実施団体の募集を行っているが、応募する考えはあるか。

2 高年齢者に対する多様な就業機会の確保のために、町が現在検討していることはあるか。

**町長** 1点目について、現在国では、高年齢者雇

用安定法の度重なる改正など、少子高齢化が進出し労働力不足が課題となっている中で、働く意欲のある高年齢者が年齢にかかわらず活躍し続けられる社会の実現に向けた政策が進められています。

特に、近年、団塊世代が65歳に到達し、多くの人が企業を退職している現状の中、これらの層の活躍の場を早期に整備する目的で、「生涯現役促進地域連携事業」が創設されています。

本町の高年齢者の雇用については、多くの企業が、定年を65歳に設定し

ていること、また、建設業・水産加工業等においては、人手不足により、65歳以上でも働ける環境にあると考えます。

しかし、このような状況の中、遠軽町シルバー人材センターにおいては会員数が減ってきている状況です。

また、高年齢者の就業機会の確保も重要な課題ですが、若年層、新卒者の就業機会の確保も極めて重要な課題です。

本町としては、若年層・高年齢者の雇用を含め、当事業の実効性については、他の市町村等の動向を見極め、雇用主で

ある企業やハローワークなど、地域の関係機関等と協議した中で判断したいと考えています。

2点目については、本町では、高年齢者に対する多様な就業機会の確保のため同センターに由来から補助金等の支援を続けており、冬季の雇用対策事業としても、同センターや丸瀬布企業事業団等に対し委託をして、高年齢者の就業機会の確保に努めています。新たな検討事項はありませんが、これらの取り組みを継続し、若年層と高年齢者の雇用バランスを考えた中で、本町における就業や雇用などをしっかりと守っていききたいと考えています。



# ただを質す!! 町政を質す!!



一般質問

阿部 君枝 議員



問

月経関連疾患や更年期障害について正しい知識啓発を

答

町広報やホームページまたはフェイスブック等で周知を図っていききたい

女性の健康を取り巻く環境は、初潮、妊娠、出産、閉経等ライフステージに応じ変化し、段階に応じた健康支援が必要とされています。

近年、晩婚化・晩産化が進み、仕事と育児や子育て、介護の両立など女性が置かれている社会環境は厳しい状況と言えます。

女性活躍推進実現に向け、月経関連疾患や女性特有のがん対策への適正な対応が急務とされています。

平成29年度日本産婦人科学会の調査では、働く女性の80%が、同じくN

PO法人日本子宮内膜症啓発会議の調査では、思春期女子の80%が月経痛等により就労・勉学・スポーツに影響を受けている事が明らかになっています。

特に、思春期の生徒の約80%が月経痛関連疾患により勉強及び体育に影響を与えているにもかかわらず、生徒の多くは保護者を相談相手とし、学校ではあまり相談できていない実態と聞いています。

そのまま放置し、成人になった時に子宮内膜症を発症し、不妊や子宮摘出に至る事例もあり、初

期の段階で適切な治療をさせる必要があるとの指摘があります。

そのためにも正しい知識の啓発が生徒のみならず、運動部の顧問や相談の窓口になる養護教諭に求められます。次の点について伺います。

1 学校教育における女子生徒への健康支援をどのように進めていくのか。

2 月経関連疾患や更年期障害についての正しい知識啓発の相談窓口の周知をポスター等で女性の健康支援を推進すべきではないか。

3 近年女性特有の子宮頸がん、乳がんの罹患者

2 本町では、紋別保健所が相談窓口となっておりますが、ホームページで周知されていますが、町としても、町広報やホームページまたはフェイスブック等で周知を図っていききたいと考えています。

3 医療機関と連携を図り、遠軽厚生病院の「がん相談窓口」や「がん患者サロン」、北見赤十字病院の「がん相談支援センター」、対がん協会の「相談ホットライン」の紹介も行っていきます。

女性に対するがん対策につきましては、健康診査、がん検診を活用し、疾病の予防や早期発見をするため、検診の受診率向上に重点をおいて取り組んでおりますので、ご理解願います。

一般質問

岩澤 武征議員



問

議会は任意団体の存置期成会に加入すべきでないと思うが

答

①目的に賛同する団体の代表が入っている  
②それについて意見する考えはない

遠軽駐屯地創立67周年記念行事として、市中パレードが6月30日に行われることになっていきます。

この市中パレードについては、4月6日に開催された平成30年度自衛隊存置期成会総会議案の事業計画に記載されています。

今、議会では町民からの「町民である自衛隊員の命を守ることを存置活動に加えてほしい。」という申請に対して、申請の趣旨には賛成だが議会が存置期成会の構成団体であるとして不採択となっています。

次の3点について伺います。

1 議会が存置期成会の構成団体になっているのか。

2 町長が会長である存置期成会の行政上の位置付けは。

3 市中パレードは、いつ・どこで決められたのか。

町長 1点目は構成する団体の一つです。

2点目の期成会は存置活動を行うための関係団体からなる任意団体です

3点目は平成26年に市中パレード実施を要望した際、合わせて隔年での

市中パレードを要望し、遠軽駐屯地で検討・決定されています。

再問 議会は民間の任意団体に入るべきではないと考えます。

再問 議会は町民から選ばれた議員の合議体であり議事機関であって他の構成団体とは異なる機関です。

また、期成会の会長が町長、副会長が議長となっていて、二元代表制の趣旨にも反する在り方には問題があると思えますがいかがですか。

総務部長 期成会の構成団体につきましては目的に賛同する団体等の代表

によって構成するとなっておりますが、議会の代表が入っているという形です。

再問 今、世界では核廃絶や紛争は話し合いで解決という声主流を占めています。

先日シンガポールでは歴史的な米朝会談が行われました。

その結果、最新の報道では米韓合同軍事訓練の中止・基地撤退を視野に入れ、北東アジアの政治的対立の構図が変化し、日本に対する北朝鮮のミサイルの脅威も少なくなっ

ていくことが予想されます。日本としては平和的な

環境を構築するために努力することが求められています。このようなアジア地域の動きがある中、二度と再び戦争だけは起こしてはならないと願う大多数の町民の声を真剣に受け止め、例年であれば自衛隊員が武器を持って行進することが予想されますが、この武器を携行するパレードが本町にはふさわしくないと考えます。

町長 パレードの内容の連絡はまだありませんが、自衛隊は違法に銃器を持っていくわけではなく、国防のために持っているため、そのことに我々が意見する考えはありません。

町長 今からでも遅くはないので、ぜひ武器を持たないパレードを要請できませんか。



# 総務・文教

# 常任委員会

5月～6月の常任委員会レポートは、総務・文教、民生の両常任委員会が4年に1度の道外行政調査を5月に行いましたので、今回はその結果を報告します。

## 道外行政調査レポート

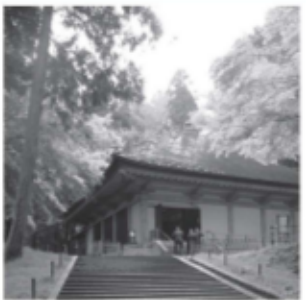
**5/10 計画を定め、空家等の対策を総合的に推進!**  
岩手県平泉町 平泉町空家等対策計画について **担当 一宮**

「空家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されたが、平泉町は既に空家等の対策を総合的に推進していくための「平泉町空家等対策計画」を定める取り組みを行っている。

**— 平泉町 取り組みのポイント —**

- ・特定空家等に対する措置、対処に関する事項を重点として策定。
- ・平成 28 年度に現状を把握するため、空家等の実態調査を実施。
- ・民間業者との連携

**まとめ** 平泉町は、空き家対策の基礎として空家対策計画を策定し、その中には空き家対策の対処方法として現段階で考えられる可能な限りの実施計画が盛り込まれており、本町が模範とすべきものであると考える。



中尊寺等文化遺産も多い平泉町では、景観条例も

**5/10 持続可能な地域づくりを目指して**  
宮城県栗原市 花山地区「小さな拠点」形成プロジェクト **担当 稲場**


道の駅や診療所・公共施設等が集まる座主集落を花山地区の拠点と位置づけ、地域が抱える課題の解決に向けて、地域自らが主体となって取り組んでいる。

**— 栗原市 取り組みのポイント —**

- ・地域が抱える課題に対応し、持続可能な地域づくりを目指すため、花山地区「小さな拠点」づくり推進協議会の設立。
- ・地域内集落と「小さな拠点」を結ぶデマンド型地域交通サービス
- ・空き家活用プロジェクトによる移住・定住の取り組み

**まとめ** 人口減少、住民の足の確保、商店の後継者不足など、町村合併後の本町遠軽地域以外の地域と共通の課題を抱えているが、各種補助金等を活用し地域づくりを進めている。

■栗原市では、その他に「栗駒山麓ジオパーク」についても行政調査を行い、ジオガイドや「栗駒山麓のめぐみ」の取り組みなどについて説明を受けた。




— 花山鉄砲まつり — 住民の協力により、各種行事も盛ん

**総務・文教常任委員長による総括報告（概要）**

総務・文教常任委員会は、所管事務に関する調査のため、平成 30 年 5 月 8 日から 5 月 11 日までの 4 日間、東北地方を中心に訪問し説明聴取、質疑応答、意見交換、実地調査及び資料収集を行った。

今回視察した 2 市 2 町は、本町と同様に降雪地帯にあり、地理的条件には多少の違いはあるものの、少子高齢化や人口減少などの諸対策には共通の問題を抱えながらも先進的な施策を進めている自治体である。

今後はこれらの経験を財産として、町村合併から 10 年を経た本町の「まちづくり」に対する様々な施策に積極的に反映できるよう、町民・行政・議会が三位一体となって取り組んでいきたい。



**総務・文教常任委員会**

委員長	竹中裕志
副委員長	稲場仁子
委員	一宮龍彦
委員	岩澤武征
委員	高橋義昭


**5/8 わらすっこプランで子育て支援!**  
岩手県遠野市 遠野わらすっこプランについて **担当 岩澤**

「遠野わらすっこプラン」の基本理念である「子どもを産み育てることに夢がもてるまちづくり」に基づき、多くの少子化対策や子育て支援事業を実施している。

**— 遠野市 取り組みのポイント —**

- ・プランを理念で支える「遠野市わらすっこ条例」と、プランを財源で支える「遠野市わらすっこ基金」の二つで支えられる。
- ・事業を行うには財源が必要であり、市民による協働の発想から、わらすっこ基金を作った。

**まとめ** 少子化対策・子育て支援を総合的に対応することで、出会い・結婚・出産・成長・就職というライフサイクルのすべてを切れ目なく支援するという長期的な視点で構想し様々な事業を展開している。



子育て関係が集約された元気わらすっこセンター


**5/9 注目を集める新たな公民連携手法**  
岩手県紫波町 コンパクトシティの取組について —オガールプロジェクト— **担当 一宮**

コンパクトシティ・公民連携の先進事例として、少子高齢化、人口減少社会状況下でのインフラ整備などを民間主導で事業性を十分に精査し、複合施設、新庁舎等を整備し、駅前を複合機能の有した拠点として再生した。

**— 紫波町 取り組みのポイント —**

- ・逆アプローチの不動産開発。志と算盤の両立。リスクの少ない安定事業として評価される不動産開発を目指した。
- ・建築事業者指定・紫波型エコハウス基準・オガール景観協定。

**まとめ** この町を愛してやまないキーマンがおり、まちづくりのアイデアを実現すべく行政と一体になって取り組み、計画を立ち上げ県や国を動かした。まちづくりの成功には“人材”が起爆剤と痛感した。



オガールプラザ紫波マルシェ


**5/9 オリンピックを契機とした地域活性化施策の一環**  
岩手県紫波町 Tokyo2020 オリンピック事前トレーニングキャンプ誘致 **担当 高橋**

バレーボール競技の事前トレーニングキャンプ誘致を目指している。国内初のバレーボール専用コートであるオガールアリーナに加え、宿泊施設であるオガールインを併設、スポーツ合宿を支える基盤を整備している。

**— 紫波町 取り組みのポイント —**

- ・IF基準適合している練習場を備えたオガールベースの他に、オガールエリア内にはトレーニング施設も医療施設もそろっている。
- ・ホテルの食事には新鮮な紫波町産の農産物を使用。

**まとめ** 日本代表の強化合宿も行っており、実際に施設を見学し説明を受けると、全日本チームが合宿するのも理解できる。本町もまだまだ整備しなくてはならない課題が多いが、現状でもできることがあるともしっかりと知恵を出していくことが必要と感じた。



オガールアリーナ



# 民生常任委員

# 委員会

# 道外行政調査レポート

5月～6月の常任委員会レポートは、総務・文教、民生の両常任委員会が4年に1度の道外行政調査を5月に行いましたので、今回はその結果を報告します。

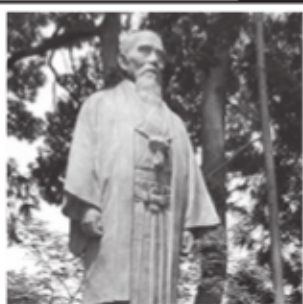
**5/17 「健康都市かさま宣言」誰もが健康に!**  
茨城県笠間市 子育て世代包括支援センター「みらい」/介護検診ネットワークシステム **担当 佐藤 今村**

笠間市では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を受けて、平成 27 年 3 月に『子育て世代包括支援センター「みらい」』を設置し、子育て期に対するワンストップサービスを提供。また「健康都市かさま宣言」で誰もが健康に暮せるまちを目指している。

**— 笠間市 取り組みのポイント —**

- ・「みらい」による妊産婦や家庭のサポート
- ・国のモデル事業として導入された「介護検診ネットワークシステム」により、事業所間の迅速な情報共有が可能に

**まとめ** 「みらい」による子育て期のサポートと、「介護検診ネットワークシステム」での予防・医療・福祉の連携が住民の健康維持につながっている。



合気道の開祖植芝盛平との縁で笠間市と友好都市を結んでいる

子育て支援/保健福祉


**5/18 地域による支え合いと商店街の活性化を両立**  
埼玉県吉見町 介護予防・日常生活支援総合事業 **担当 黒坂 渡部**

平成 24 年度から行っている「ささえあいサービス事業」により、互いに支え合い・助け合うまちづくりを推進している。

**— 吉見町 取り組みのポイント —**

- ・買物代行や部屋の掃除などの地域の支え合いを行うと地域の商店街で利用できる「商品券」が謝礼として提供
- ・商品券が利用されることで、地元商店が活性化につながるだけでなく、支え合いを行う人の生きがいにもなり一石二鳥

**まとめ** 「ささえあいサービス事業」を総合事業に組み込むことで、生きがいを創出するだけでなく、ボランティアセンターを設置することで、参加者の啓発や資質向上につなげている。




吉見町キャラクターよしみん

介護予防/日常生活支援

**民生常任委員長による総括報告（概要）**

民生常任委員会は、所管事務に関する調査のため、平成 30 年 5 月 15 日から 18 日までの延べ 4 日、東北、北関東を中心とした施設、行政などの視察を行った。いずれの施設・行政としての取り組みなどは、少子高齢社会の到来、人口減少社会に突入していく中で、遠軽町においても取り入れるべき課題も多いと感じたところである。今後、人口減少、更なる高齢化という流れの中で、今回の行政視察調査を踏まえ、町の政策や、街づくり、町おこしに生かしていくことが重要であると考えます。



**民生常任委員会**

委員長	佐藤	昇
副委員長	山谷	敬二
委員	今村	則康
委員	黒坂	貴行
委員	渡部	正騎


**5/15 講座と職場体験を積み重ねながら一般就労を実現**  
宮城県仙台市 特定非営利活動法人 ほっぷの森/長町遊楽庵びすた〜り **担当 山谷 今村**

『ほっぷの森』は高次脳機能障害者と知的障害者の方に対して就労支援を行い、一般就労のための機会を提供している。

**— 「ほっぷの森」 取り組みのポイント —**

- ・「自分を知り」「仕事を知り」「企業を知る」ためのほっぷ独自のプログラムで基本的能力の向上
- ・古民家を改修したレストラン『びすた〜り』で働きながら次のステップ（一般就労）へ

**まとめ** 利用者に対する独自プログラムによる能力の向上、そして実際の就労訓練の実践としてのレストラン。この連携により障がい者の一般就労につながっている。



一歩ずつゆっくりとそれぞれの目指すところへ

障がい者就労支援


**5/16 利用者減少と既存事業者の保護が課題**  
宮城県大河原町 デマンド型乗合タクシー「さくらっきー号」 **担当 山谷 渡部**

大河原町では、相次ぐ路線バスの運行縮小・廃止に伴い、高齢者の足の確保が課題となり、平成 24 年 7 月からデマンド型乗合タクシーの運行を開始した。

**— 大河原町 取り組みのポイント —**

- ・年間 1 万人の利用者の利便性向上のため、スマートフォンで予約を行うことができる「予約配車システム」の導入
- ・運転免許返納した方に対し、デマンドタクシーの回数券進呈

**まとめ** 5 年経過し、利用者が減少しているのと、既存事業者との兼ね合いの問題がある。この問題のため、大河原町ではデマンドタクシーを活用するネットワーク形成の計画を検討している。



デマンド型乗合タクシー「さくらっきー」号

デマンド型乗合タクシー


**5/16 多世代交流の場、子供の遊び場として整備**  
宮城県白石市 屋内広場「プレイルームやんちゃっこ」 **担当 佐藤 黒坂**

未就学児と子育て中の保護者、そして高齢者などの交流の場を設けることにより、町なかに賑わいを創出することを目的として、「白石市ふれあいプラザ」を整備。屋内広場「やんちゃっこ」はその中にある。

**— 白石市 取り組みのポイント —**

- ・地域子育て支援センターを整備し、「育児講座」「子育てサークル」などを行い、子育て家庭の支援
- ・「やんちゃっこ」により、未就学児が安全に楽しめる場を提供

**まとめ** 「ふれあいプラザ」内に「プレイルームやんちゃっこ」「地域子育て支援センター」などの様々な機能を持たせることにより、多世代交流の場として利用されているだけでなく、町なかの賑わいを創出するという効果があった。



アンパンマンの遊具を設置してから利用者が増加した

子育て支援



### 第三セクター報告

**株式会社 生田原振興公社 第27期事業報告**

◆イベント・企画の充実で売り上げ増に

○ノースキング  
入浴利用者の年間利用実績は、5万9313人で、前期と比べ605人の増加となりました。宿泊利用者は、町内建設工事関係の方々の利用や、新たに始めたネット販売などの結果、宿泊人数は1万831人となり、前期と比べ240人減少となりましたが、ビジネス客の利用やスポーツ関連の団体利用があり、平日の連泊利用も多く、夜も温泉に入れるので、ビジネス客からも大変ご好評をいただいております。

レストランは、地元食材を使ったフェア、地場産であるアスパラガスや、カボチャを使ったメニューなど、大変好評をいただいております。リピーター客も増えていきます。

年間利用実績は、4万

7519人で、前期と比べ、3892人増加となりました。

○ちやちやワールド  
イベントや企画展などを開催し、旅行代理店等への営業・販売促進を行いました。入館者の増に努めました。利用実績は1万7819人で、前期と比べ376人減少しました。

売店売上は、地場産のアスパラガスやカボチャを使ったうどんの乾麺を製作し販売、冷凍カボチャの販売会など、地場商品による販売促進に努めました。

えんがる町観光協会にソフトクリームの材料提供、ネットヨタ札幌様等へ木の砂場など積極的な営業活動により、売り上げ拡大に努めました。

その結果、1305万円を売上げ、前期と比べ82万円増加しました。

○年間集客数  
ノースキングはレストランを含めて延べ約11万7千人、ちやちやワ



各イベントでも盛り上がりがありました

**株式会社 フォーレストパーク 第23期事業報告**

◆これまでにない悪天候に悩まされたシーズン

平成29年度は、11月30日から人工降雪作業によるゲレンデコースの準備を進め、12月23日にオープン、翌年3月26日まで営業しました。

今シーズンは、人工降雪を前年度より早く始め、早期のオープンを目指していましたが、12月1月と気温が高く、その後も十分な積雪が得られず、全面オープンが1月下旬と大幅な遅れをとり、12月1月の合宿等の呼び込むことができず、その後も暴風や雨などの悪天候によりトータル14日間もの営業の中止や停止に見舞われるなど、これまでに無い悪天候と過去最低の積雪に悩まされるシーズンとなりました。

それでもスキー授業や自衛隊等の地元団体には大きな影響を及ぼすこと、

○営業実績概要

- ・営業日数 93日
- ・リフト利用者数 18万3915人
- ※前年比1万5207人減
- ・売上高 2123万1710円
- ※前年比184万7240円減



各大会も無事開催!

# 常任委員会

## レポート 経済

経済常任委員会の道外調査は秋を予定しています。



経済常任委員会現地調査  
町職員の説明を受ける

**7月3～5日の大雨で被害が広がる**

大雨の影響による被害状況を把握するため委員会は調査を行った。特に本町の重要な基幹道路の道道244号遠軽芭露線に架かる「いわね大橋」の被害は大きく、また私たちの生活への影響も大きいものとなっている。

現在、同橋は通行止めとなっており、付近に住む方達はもちろんのこと、同橋を利用する皆さんが、大きく迂回して移動するという不便な生活を強いられている。



経済常任委員会現地調査  
被害状況を目の当たりに

**いわね大橋に被害。復旧が急がれる!**

歩道橋については、7月17日から条件付きで通行が再開しているが、全面開通には長期化が予想されており、早期の復旧が急がれる。

### このほかの委員会の開催状況

- 議会運営委員会 3回開催
- 主な審議項目
  - ・平成30年第3回議会臨時会
  - ・平成30年第4回議会定例会
  - ・陳情等の取扱い結果
  - ・平成30年第4回議会定例会 追加議案
- 会派代表者会議 1回開催
- ・平成30年第4回議会定例会の人事案件
- 広報特別委員会 3回開催
- ・議会だよりの編集



# いろいろなことを気づきたい いろいろなことを伝えたい

## えんがある話 (まちな声)

○遠軽町大通北一丁目  
(有)毛利ラジオ店

○市田 尚美さん

市田さんは遠軽町で生まれ育ち、遠軽高校を卒業後札幌で就職。

その後、平成23年に遠軽に戻り家業の電気店を父の下で修業し昨年取締役に就任しています。

本業の電気店はもとより、趣味や特技を活かし、『なごみの部屋』として若い人からご年配の方まで、いろいろな方面に情報を発信しています。

○今、特に力をいれているイベントは

今までに、おからこんにやく料理教室、耳ツボセラピー等沢山のイベントを開催していますが、最近は特に野草料理教室、エディブルフラワー(食べられる花) 試食会、水

引雑貨づくりなどの各種ワークショップに力を入れていきます。

昨年、「ハーブ王子」と野草研究家の山下智道さんに会い、野草に興味を持ちました。

オホーツクという広大なこの地域で出会う植物がどれだけの宝物なのか、皆さんに見てもらえるように活動中です。

さらに今後はエディブルフラワーの「コスモス」を育てようと企画中です。

フェイスペインクに『なごみの部屋』を発信していますので、少しでも興味を持たれましたら、ぜひご覧ください。

○この町の魅力をどのように発信したらよいとおもいますか

個人個人が、それぞれの『ある』に目を向けることが出来るか、と思っています。

興味のないことって、全てひっくり返して『ない』という表現を使いますが、この表現ってもったいなさって思っています。

どれだけ住んでいる地域のことを知っているのだろうか…。



今は、野草を勉強中です

自分の中で地域の価値を決めてしまいがちになりますが、情報を自分の中に入れて、伝えるだけでも見える世界が変わってくると思います。

大事なものは、基本「遠軽が好き」という感情があるのかなと…。

発信されたことよりも自分で気づいて、『遠軽と言ったら○○』っていう認識が個々にあると町外の方にも伝えやすいと思います。

○今の仕事について何かありましたら

みなさんの中に電器屋さんとして認識してもらえているかということ意識しています。

選ばれた前に候補に入っているのか、まずはここだと感じています。

それと店内は電器屋らしくらぬ「おからこんにやく」だったり「宮文」の包丁の取り扱いだったりがあります。

自分にとつての『いい商品』が扱える環境はありがたいと思っています。

○町と議会に対して何かありましたら

いろいろなことを企画して開催していただいています。周囲に伝えきれていないのでは?と感じています。広報に記載して、町のホームページに発信してその後のフォローが足りないように感じられますが…!

それは、私個人もそうですが、告知後のクチコミをどれだけするかで気づくことがたくさんあるのではと思っています。

## 編集後記

遠軽町の夏の風物詩とも言える「遠軽がんばろう夏まつり」。

いろいろな世代や仮装する踊り子たちの「千人踊り」は、商店街も色どりの露店で楽しむ子どもたちの笑顔は今も昔も変わらないようにも見えます。

今年で67回を数え、これまで同じ道で行っていたこのお祭りも、今年から始まる大型事業工事の関係で、来年からは道が変わることになるでしょう。

でも、私たちがこの「まちのお祭り」を楽しむ気持ちが変わらない限り、道が変わってもまた新しい風景を映し出していくと思います。

- 広報特別委員会
- 委員長 秋元 直樹
  - 副委員長 山本 悟
  - 委員 佐藤 登
  - 委員 渡部 正騎